小学校の事例 清田区 清田小学校

廃油と牛乳パックを再利用。大学院生が先生のキャンドル作りで環境問題を学ぶ。

廃油をそのまま捨てると「水」が汚れてしまう。
いろいろな水の使用量や汚れ、水の大切さを理解した上での
リサイクル活動により一人一人の生活を見直し
未来へ視野を広げる機会になっている。

はじまり 北大大学院の学生が企画を提案

6年生が、北海道大学公共政策大学院の学生とともに、廃油と牛乳パックを再利用して「キャンドル」をつくる取組を行った。これは「人と人をつなげることで何かを生み出したい」と考えた大学院生たちの熱意によって実現したものである。

学生が「キャンドルづくり」の説明をしているようす

内容 廃油を有効活用し 水の大切さを実感

キャンドルづくりは本校の家庭科室を使い、学級ごとに実施。5〜6人のグループを作り、1グループに学生が1人付いて行われた。学校給食で使用された油や牛乳パックを再利用。作り方は、廃油を火にかけてクレヨンで色付けしたものを牛乳パックに流し込み、最後に芯を入れ固まるまで乾かすという流れで、全体の作業時間は30分程度。

その後、視聴覚室へ移動し、「水」についての環境講座を受講。パワーポイントを使ったクイズ形式で行われ、「小さじ1杯の油を川に流した場合、元のきれいな水に戻すためにはどれくらいの水が必要か?」など水の汚れに関する問題では、沢山の水とエネルギーが必要であることを認識し、廃油を下水に流してはいけないこと、廃油を再利用することの大切さを実感した。

説明を聞きながら準備している児童のようす

廃油を熱し、凝固材を入れているところ

また、「4人家族が1日に使う水の量はどれくらいか?」「4人家族で1日のごはんを作ったり、洗い物をするのに必要な水の量はどれくらいか?」といった水の使用量については「10リットルのバケツ25杯分の水が必要」といったわかりやすい解答に、子供たちは具体的な水の量を把握でき、驚きの声をあげていた。

効果 異世代交流で子供たちの視野が広がる

廃油は捨ててしまうのでなく、今回のように再利用してキャンドルや石鹸、堆肥を作るなどして、水を汚さないような工夫をすること、水は貴重なものであり、水が汚れてしまうと人も動物も暮らしにくくなってしまうということなどを知り、子供たちは「水をきれいに保つために自分たちの生活をもう一度見直してみよう」という大学生の言葉を真摯に受け止めていた。

この取組は、先生となる学生の年齢が児童に近いということ、また、異世代との交流によって児童が新たな目標をもつきっかけとなり、児童が将来への視野を広げることにもつながる機会となった。今後も、このような体験学習の実施や、外部から専門家を呼ぶなどして環境学習を継続させていく予定。

廃油を熱し、凝固材を混ぜているところ

ろうそくの芯を入れた容器に流し込んでいく

10月28日キャンドルナイトのようす

この時に作成したキャンドルが「サステナビリティウイーク※」の10月28日(平成22年)に、北大「キャンドルナイト」で使われました。

※国内外から研究者、教育者、学生、市民のみなさんが集まり、よりよい未来に向けた次なる一歩を探っていく取組です。

広げよう つなげよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

子供たちからは「家でもできそう!」との声があり、子供たちの新たな視野を広げるよい機会になりました。こういった体験学習は、将来的に子供たちの心の中に残り、影響を与えていくものだと思います。この活動を通し、「誰か一人でも周りの人に体験したことを伝えることが、環境に対する取組が広がることにつながっていく」ということに子供たちが気付き、企画・実践・成果を目指して行動できるような人になって欲しいと思います。